

受付番	ミッション名	代表提案者	提案書送付者	第三回試行公募 中間審査コメント（公開用）
		氏名	氏名	
1	小型降水レーダコンステレーション	金丸佳矢	金丸佳矢	実績に基づいた提案であり、フィージビリティは高いと考えられるものの、小型という割には小さくない印象。海外の動向（tomorrow.io社やNASAのINCUS missionなど）の調査・海外の小型レーダとの比較検討・協働等も検討を進めるとともに、さらに小型化した提案、技術開発要素も含め、技術検討を継続すべき。
2	高空間分解能・偏光多方向観測による雲・エアロゾルモニタリングと物理過程解明	日置壮一郎	日置壮一郎	SGLI型の偏光センサをさらに発展させるためによくまとめられた提案であり、推奨すべき。2030年代に3機の偏光観測体制になることの意義や欧米のセンサに対する優位性、ハードウェア的な技術開発の状況を明確にするとともに、SGLI後継の他提案との合流や協力・連携を検討すると良い。
3	気象・海洋・陸面予測を革新する高頻度衛星観測網の設計事前評価プラットフォーム	三好建正	寺崎康児	我が国の計算基盤整備にとって今後必要となる重要な提案であり推奨すべき。現在提案されている他の将来ミッションと協力して事前評価をすること、またそれらを通じた複数のミッションに対応可能なOSSEの共通化の具体的な検討を進めると共に、JAXAのJoint Simulatorへの組み込み、富岳の研究枠組みへの提案も進めていただきたい。
4	静止衛星搭載雷放電センサー	牛尾知雄	牛尾知雄	雷放電観測の意義が明確である上、WIGOS2040でも優先度の高いセンサとされており、欧米の気象予測でも利用予定であるため、降水の理解の深化、社会基盤整備としても意義のある提案。測器・データ処理の観点からも実現可能性は高いので、将来的には「ひまわり」シリーズだけでなく、他の静止衛星への搭載提案を検討するとともに、2波長雷センサが長期間（例えば10年）使用できる見通しが示せると良い。
5	ドップラー風ライダー（気象予測精度向上のための全球風観測ミッション）	石井昌憲	石井昌憲	岡本創氏提案の風ミッションとの融合は特筆である。近赤外ライダーを利用し、Aeolus技術に対する長所を示すために役立つ提案である。MOLIの後継として既存技術をどう活用できるかを示しつつ、ぜひ早期の実現に向けて技術開発を継続してほしい。
6	静止光学衛星	沖 一雄	沖 一雄	災害監視はもちろん雲のない画像、動画の作成については実現すれば大きな波及効果が見込めるため、推奨すべき提案。ボトルネックとなる大型望遠鏡の技術開発における課題の克服を含めた計画を示していただきたい。
7	次世代降水観測レーダの技術実証	高橋暢宏	高橋暢宏	着実な検討に基づいたアンテナ展開機構開発を軸とした技術実証ミッションである。実現までの道のりは長いように思えるが、技術実証を積み重ねるとともに、GEOレーダ実現に向けた中間的なミッションとしての位置づけや小型衛星との棲み分けを検討していただきたい。
8	Ku帯ドップラー降水レーダミッション	高橋暢宏	高橋暢宏	現在計画中のNASA/AOS計画において中心的な観測の一つである重要な提案である。気象学に対して大きな貢献をもたらすと考えられるため、最優先で推進すべき課題。着実に実現できるよう、進めていただきたい。
9	災害対応・ベースマップおよび環境モニタリングに関するミッション（その3）	渡邊知弘	渡邊知弘	ALOSシリーズやMOLI等の利用拡大と継続を図る提案であり、継続意義は大きい。ベースマップを常時更新することの必要性や、新規性、実用性や成果の出口、それに至る研究計画について強調できるとより強い提案になる。L-band SARの担う役割を強調するとともに、広域観測や小型衛星とのシナジーの中心的な役割を果たしていただきたい。

10	静止衛星海色ミッション	石坂丞二	石坂丞二	静止衛星による高精度な海色センサは利用可能性が高いと思われる一方、時間解像度の向上による海色の連続観測の意義を整理されたい。検討されている優先順位のうち、最小実現で示されているような現行のAHI等の感度向上・波長の増加のような提案に統合すると実現性が向上するのではないか。また、空間解像度を向上させた場合のデータ転送量に関する技術的見通しについても検討されたい。
11	高層大気の化学・力学場の動態把握のための FTS 衛星観測ミッション	江口菜穂	江口菜穂	高層大気の相互作用は科学的に重要なミッション提案である。実用的な意義や他ミッションが提供する便益と比較した優位性、類似の海外ミッションの有無、他センサでの実現可能性を示せるとよい。もう一つの提案「FTS小型衛星コンステレーションによる水蒸気・同位体・氷雲・放射収支観測ミッション」と重なる点もあるので、差別化等をさらに検討すると良い。□
12	FTS 小型衛星コンステレーションによる水蒸気・同位体・氷雲・放射収支観測ミッション	江口菜穂	江口菜穂	将来的な展望としては有望であり、小型衛星提案としてはフィージビリティはあると思われる。ただし、熱赤外から遠赤外まで全てをカバーする高精度のセンサ開発は難しいため、小型化を目指す場合は波長域の選択に関する調査、FTSのスペクトル分解能と衛星サイズのトレードオフを中心に技術的な検討を進めるべき。また、原理的に対流圏観測が難しいので、下層の予報精度改善についての利点をより示してもらいたい。
13	雲レーダ・ライダーによるデュアルドップラー観測ミッション	岡本 創	西澤智明	EarthCAREミッションの後継に対応し、今後の雲エアロゾル研究の科学的成果のために重要なミッションである。我が国の技術基盤に基づいた計画なのでフィージビリティは高い。雲レーダ・ライダーを統合した今後の主流となる提案の一つだが、他衛星（ひまわり等）との連携・組み合わせも検討するとともに、NASA/AOSミッションとの関係性を整理すべき。
14	アジア静止軌道からのGHGs/SLCFs測定と排出量評価	笠井康子	笠井康子	化学天気予報という観点から、SLCP削減と大気汚染の激しい地域で役立つセンサであり、意義は大きいので、空間解像度以外もアピールできるとなお良い。大気汚染の影響が大きい中国・韓国も含めた国際協力に加え、韓国GEMSとの差別化（例えば、ひまわり11号イメージャーとの同時観測など）、GOSATシリーズとの棲み分けを整理しつつ実現努力をすべき。
15	衛星搭載水蒸気観測用差分吸収ライダー（DIAL）の技術実証	阿保 真	阿保 真	海上風、水蒸気プロファイル、海面フラックスの観測は重要性が高く、世界的にも優位性がある一方、日本では未だ実証実験がないため、研究・利用コミュニティの涵養とともに、既存技術との比較や航空機による基礎実証実験を含めた検討をぜひ進めていただきたい。
16	ひまわり後継衛星の検討	中島 孝	別所康太郎	宇宙基本計画工程表にも記載されており、推奨すべきミッション。空間解像度の向上を含めたセンサの高度化により植生・海色等の多目的利用への実現性を向上させ、費用対効果の向上を図るとともに、今後検討する11号などでは、他センサ（候補は雷センサー等）の導入も検討いただきたい。
17	静止衛星と周回衛星複合観測による擬似高頻度高解像度観測の実現	本多嘉明	本多嘉明	CEOSのバーチャルコンステレーションの枠組み、気象データ同化、データ融合における衛星複合利用の観点でも実現性が高い提案である。予算のかかる衛星打ち上げの提案とは分けて、将来的な小型衛星との連携も含めて提案を構築して進めていただきたい。また、手法面では機械学習をうまく取り入れ、高解像度データをトレーニングデータとして用いて低解像度の多波長データから高解像度情報を取り出すことなどを検討されてはいかがか。
18	地球環境変動（地球温暖化を左右する全球の放射強制力や生態系変動）の監視・解明に関するミッション（GCOM-C後継）	本多嘉明	本多嘉明	広範囲なサイエンス・実利用の両分野において、多大な成果を上げているSGLIミッションの後継として確実に実現すべき。一方で後継機の機能の選定・強化・連携が必要であり、ミッションの内容を具体化し線表を示すとともに、実現度を元に整理しつつ、J-Train実現に向けて進めていただきたい。日置氏の偏光観測の提案も含めた検討もあり得る。